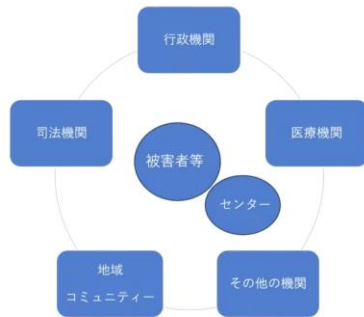
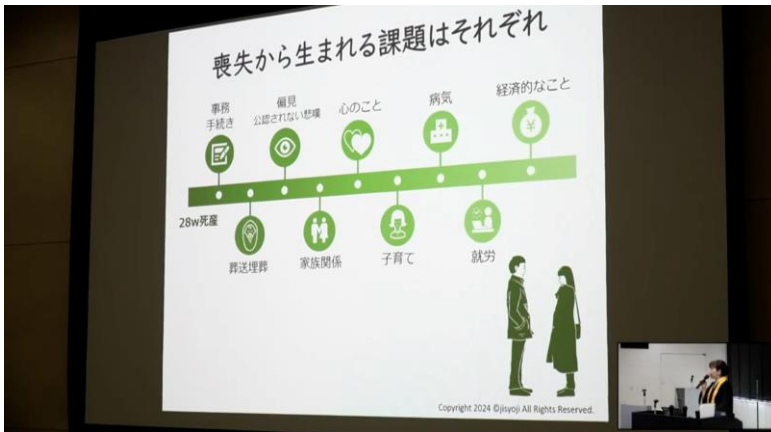


巻末資料3. グリーフケアの啓発資料

関係機関とともに支える



グリーフケアを実施する複数の機関による講演が含まれた。



併せて、自助団体による報告や提案も含まれた。

保健師によるグリーフケアの可能性

- これまで、母子保健システムの中で全ての母子を対象に切れ目なく支援している。
- 母子保健が子ども家庭庁に包含され児童福祉と一体的に支援する体制下に入り過渡期である。
- 母子を支援する意識は高い。
- グリーフケアに対する知識や技術が確立していない
- 当事者にも支援を求めてよいという認識の醸成や抵抗感の軽減が必要である。
- 関係機関との一層の連携強化と拡充(ひろがり)が求められる。

行政の仕組みのなかでグリーフケアを実現する方策について、母子保健業務の一環として当該事業を捉える考え方の紹介があった。



シンポジウム (2024.9.6) で実現した関係者等による対談の様子も収録され、。